

# 平成31年度第17回 教育委員会会議 会議録

- 1 日 時 平成31年 1月15日（水） 13：14～18：00
- 2 場 所 3号館8階教育委員会室
- 3 出席者 <教育委員会>  
長田教育長 山本委員 梶木委員 伊東委員 今井委員  
<事務局>  
川田教育次長 後藤教育次長 浜本総務部長 荒牧教育施策推進担当部長  
住谷教職員人事担当部長 横山学校計画担当部長 藤原学校教育部長  
黒田スポーツ体育部長 山下総合教育センター所長
- 4 欠席者 福田委員
- 5 傍聴者 2名（報道機関 1社）
- 6 次第  
教第64号議案 学校園管理職昇任選考試験について  
教第65号議案 I C T学習環境整備について  
教第66号議案 平成31年度全国学力・学習状況調査の参加と結果の公表方針について  
教第67号議案 神戸市立小磯記念美術館条例及び神戸ゆかりの美術館条例の一部を改正する条例（案）に関する意見決定について  
教第68号議案 神戸市立博物館条例の一部を改正する条例（案）に関する意見決定について  
教第69号議案 神戸市スポーツ表彰 被表彰者決定について  
報告事項1 神戸市立学校教員採用候補者選考試験改正について  
報告事項2 特別支援学校の夏季休業中における授業の試行実施について  
報告事項3 平成30年度全国学力・学習状況調査、神戸市学力定着度調査の結果報告書（データ版ならびにアイデア版）について  
報告事項4 学力向上施策について  
報告事項5 神戸市スポーツ特別賞 被表彰者決定について  
報告事項6 栄養教諭の配置について  
報告事項7 小磯記念美術館の改修工事について  
報告事項8 教職員の人事評価について  
報告事項9 第11回組織風土改革のための有識者会議について  
報告事項10 垂水区中学生自死事案に関する報告について  
※予定していた協議事項29については、1月15日の会議では協議を行わなかった。

## 7 会議内容

(長田教育長)

それでは、教育委員会会議を始めます。

本日は福田委員が所用のため欠席です。

まず初めに、写真撮影の許可についてお諮りをします。

本日の教育委員会会議の様子を、神戸新聞社さんから写真撮影の申し出がありますので許可したいと思います。御異議ございませんか。

(「はい」の声あり)

(長田教育長)

それでは、許可することとします。

本日は議案6件、協議事項1件、報告事項が10件となっています。

まず初めに、非公開とすることが適当ではないかと思われる議案等についてお諮りをします。教第64号議案については、教育委員会会議規則第10条第1項第2号により、職員の人事に関する事。教第65号議案については、同項第6号により、会議を公開することにより、教育行政の公正かつ適正な運営に著しい支障が生じる恐れのある事項であって、非公開とすることが適当であると認められるもの。教第67号議案、教第68号議案については、同項第3号により、長の作成する議会の議案に関する事。教第69号議案、協議事項29については、同項第6号により、会議を公開することにより、教育行政の公正かつ適正な運営に著しい支障が生じる恐れのある事項であって、非公開とすることが適当であると認められるもの。報告事項1については、同項第2号により職員の人事に関する事。報告事項4、報告事項6、報告事項7については、同項第6号により、会議を公開することにより、教育行政の公正かつ適正な運営に著しい支障が生じる恐れのある事項であって、非公開とすることが適当であると認められるもの。報告事項8については、同項第2号により、職員の人事に関する事。報告事項10については、同項第6号により、会議を公開することにより、教育行政の公正かつ適正な運営に著しい支障が生じる恐れのある事項であって、非公開とすることが適当であると認められるものということで、それぞれ非公開としたいと思います。よろしいでしょうか。

(5名の賛成により非公開案件を決定)

(長田教育長)

ありがとうございます。それでは、報告事項5からまいります。

## **報告事項5** 神戸市スポーツ特別賞被表彰者決定について

(長田教育長)

神戸市スポーツ特別賞被表彰者決定についてです。こちらは、天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会で優勝をされた久光製薬スプリングスを、神戸市スポーツ特別賞の被表彰者として決定したことの報告となっています。

この件について何か補足説明はありますか。

(上田スポーツ体育課長)

いえ、特にはありません。

(長田教育長)

表彰日時は調整中ですか。

(上田スポーツ体育課長)

現在調整中です。

(長田教育長)

よろしいですか。

(「はい」の声あり)

(長田教育長)

では、次にまいります。報告事項2です。

## **報告事項2** 特別支援学校の夏季休業中における授業の試行実施について

(長田教育長)

報告事項2は、特別支援学校の夏季休業中における授業の試行実施についてです。来年度より特別支援学校についても、小・中学校と同様、8月末に夏季授業日を3日間試行実施したいということの報告となっています。

この件について、御質問、御意見等ございましたらお願いします。

(今井委員)

事前にいただいていた資料から、今日机上で配付していただいた資料に修正が入っているようですけれども、どこが修正になったかを教えていただけますか。

(田中総務課調整係長)

2ページの(3)特別支援学校長の考え方のところです。

(長田教育長)

この(3)の考え方ですか。

(田中調整係長)

最後のところで、授業日を一緒に設定したいと考えているという書き方になっています。

(長田教育長)

書き振りがちょっと変わったということで、内容そのものは変わっていませんね。

(山田特別支援教育課指導主事)

変わっていません。

(今井委員)

わかりました。

(長田教育長)

他にございますか。

(梶木委員)

授業日にあわせて、通学バスとかもこの日も出るのでよね。

(山田特別支援教育課指導主事)

はい。

(梶木委員)

いろいろと周知徹底が大変だと思いますので、徹底して行っていただけたらと思います。

(山田特別支援教育課指導主事)

はい、かしこまりました。

(長田教育長)

よろしいですか。

(「はい」の声あり)

## **報告事項 9** 第11回組織風土改革のための有識者会議について

(長田教育長)

それでは次にまいります。

報告事項 9、第11回組織風土改革のための有識者会議についてです。簡単に説明をお願いします。

(吉田組織改革担当課長)

第11回組織風土改革のための有識者会議が午前中に開催されました。場所はこの教育委員会議室で行われました。全委員が出席をされています。会議内容ですが、事務局から先週の金曜日に行った懲戒処分について報告をしました。その後、前回の会議までの意見を踏まえて、教職員の不祥事の根絶に向けた再発防止策について意見交換を行っています。

今後の予定としては、次回の会議を1月31日に予定しています。そちらのほうで、一応後半の教職員の不祥事の根絶に向けた再発防止策についての議論を終わらせて、中間取りまとめとして、報告書を提出するということになりました。

その後、いじめ再調査委員会の報告書が提出された後、会議を開催して、9月11日に提出されている中間取りまとめについて、書き直しや修正をするかどうかを議論し、最終報告書の提出を行いたいということで決定をしています。

以上です。

(長田教育長)

この件について、御質問、御意見ございませんでしょうか。

次回の1月31日の会議の後で中間取りまとめを提出いただくとなっているけれども、9月11日にも中間取りまとめを提出いただいていますよね。

(吉田組織改革担当課長)

中間取りまとめその2という形です。

(長田教育長)

ちょっとそこを誤解というか、混同しないようにしてください。できれば次に出していただくのは「中間取りまとめ」という表現ではなくて、何か別の表現を使っていただくように有識者会議の委員の先生方をお願いをしていただいたほうが、混同するのではないかという気がしますけれども。

(吉田組織改革担当課長)

「第2弾」や「その2」みたいな言い方を会議の中ではされてきました。

(長田教育長)

報告をいただけるということですよ。

(荒牧教育施策推進担当部長)

そうです。

(長田教育長)

最終報告書はあくまで、今、市長のもとで行っていただいている再調査委員会の報告書が提出されたあとに、今回出していただく予定のものを追加なり修正なりの必要があるかどうかを議論いただいて、最終報告書として出していただくのです。

(吉田組織改革担当課長)

はい。

(荒牧教育施策推進担当部長)

9月11日に提出していただいた取りまとめの書きぶりに影響があるかどうかというのを検討することになるかと思いますが、全体を含めての話でもあります。

(長田教育長)

だからそういう意味でも、もし今回出していただくとすれば「中間取りまとめ」という表現がいいかどうかですね。あっちもこっちも「中間取りまとめ」みたいに聞こえるので、そこは1回、有識者会議の委員の先生方が考えていただく表現かもしれませんけれども、事務局側からしても、できたら混同を招かないようにということで、少しお願いをしていただいたほうがいいかなと私は思います。

(荒牧教育施策推進担当部長)

わかりました。

(長田教育長)

他にございませんでしょうか。

(梶木委員)

再調査委員会の報告書のスケジュール的なことはまだわからないという認識でよろしい

ですか。

(吉田組織改革担当課長)

年度末ということしか、我々も伺っていません。

(長田教育長)

他にいかがでしょうか。よろしいですか。

(「はい」の声あり)

### **教第66号議案** 平成31年度全国学力・学習状況調査の参加と結果の公表方針 について

(長田教育長)

では、次にまいります。

教第66号議案、平成31年度全国学力・学習状況調査の参加と結果の公表方針についてです。簡単に説明をお願いします。

(浦川教科指導担当課長)

平成31年度の全国学力・学習状況調査への参加と結果の公表方針についての議案です。

1 ページをごらんください。31年度の調査の概要です。(1)から、調査の目的・名称・対象等です。31年度の調査対象者は小学校164校12,000人余り、中学校84校12,000人余りで、おおむね例年同等の数ということです。

(4)の調査事項に関して、昨年度との変更点が3つありますので、3つだけ申し上げます。変更点の1つ目です。教科に関する調査について、今までA問題としていわゆる知識を問う問題と、B問題として活用力を問う問題のA・B問題が出ていたのですが、このたび一体的に扱う問題に変更になるということです。

2 ページのほうにもありますが、調査時間が小学校が40分から45分、中学校で45分から50分に変更になると聞いています。

その次ですが、中学校の教科に関する調査に、新たに英語調査が追加されます。英語については、3年に1度実施する予定だと伺っています。英語調査については、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの4技能の調査が実施されます。話すことですけれども、例えば学校にあるパソコンにソフトウェアをダウンロードして、ヘッドフォン付きのマイクで、生徒が実際に声を吹き込みます。それを録音したものを文科省に送って採点します。そういった形での調査です。ちなみに、30年度には理科が実施されましたけれども、これも3年に1回ですので、31年度は理科は実施されないということです。

(5)の実施日は、4月18日(木)となっています。

(6)のところには、中学校の英語調査ですが、先ほど申し上げた「話すこと」に関しての特例措置についての説明です。例えば地域によってはパソコンそのものが学校に全くないようなところもあるかもしれないので、そういった場合は特例的に「話すこと」を受験しなくてもいいといったものですが、本市においては1月末から2月の頭にかけて、文科省のほうから事前にダウンロードができるので、神戸市のK I I Fとかファイヤーウォールとの関係がないかどうかはちゃんとクリアした状態で、神戸市においては全校で英語の「話すこと」の調査も実施したいと考えています。変更点は以上です。

3ページをごらんください。神戸市として、大きい2番ですが、全国調査に参加するという形にしたいと考えています。

続いて4ページをごらんください。今度は、その結果の公表方針についてです。30年度と同様の方針案とさせていただきます。簡単に申し上げますと、大きい1ですが、神戸市全体の結果公表については、平均正答率等々を速報値として公表するという事にさせていただきます。ただし2番ですが、学校ごとの結果公表については事務局は学校ごとの平均正答数、平均正答率の数値は公表しないということにします。また、各学校に対しても同様に、(1)から(3)の内容を指導してまいりたいと考えています。

5ページ以下は文科省の実施要領の公表結果の取扱に関する部分の抜粋です。参考にご覧いただければと思います。

学校ごとの平均正答率、平均正答数等を公表しているのは、政令市を調べましたけれども1市もありません。以上の形で、30年度と同様の取扱にしたいと考えています。御議論のほどよろしく申し上げます。

(長田教育長)

この件について、御質問、御意見はございますでしょうか。

(今井委員)

英語の「話すこと」について、かなり準備であったり当日であったり、なかなか実際にやるのが難しい学校が出てくるのではないかという懸念もあると思いますけれども、そこはいかがお考えでしょうか。

(浦川教科指導担当課長)

30年度に一応、井吹台中学校でテスト実施というのをしました。あそこは1番クラスが多い学校ですが、その中で特段大きな支障というのとはなかったという状況です。ただ、やはり御指摘の通り、学校自身も心配になっているところが多いので、先週にこれだけの説明会を開催させていただいて、疑問点とか、今後整理されていく点などの説明をしたところでした。



(梶木委員)

「話すこと」は結構特例な感じですがけれども、聞くことは大丈夫なのですか。

(浦川教科指導担当課長)

聞くことについては、例えば神戸市独自の学力定着調査で既にやっていますので。CDをかけて校内放送で流してという、同じようなやり方になるので、そこは特段新しいことはないです。

(梶木委員)

特に1人ずつが聞くわけではないのですね。

(浦川教科指導担当課長)

そうではないです。校内放送です。話すことをしている間も、横の生徒さんと並んだらどうしても声が聞こえてしまうというのはありましたけれども、多少隣の生徒の声が聞こえたりするのはやむを得ないというのは文科省も言っています。

(山本委員)

井吹台中学校の昨年された時の課題みたいなことはどんなことがありますか。今の説明ではほとんどうまくいったという話でしたけれども、課題というのはやっぱり声が聞こえるとかそういうことぐらいですか。

(浦川教科指導担当課長)

そうですね、どうしても横の生徒の声につられてしまうというところがあります。ちょっと大き目の声で隣の生徒さんがおっしゃると、それにひっぱられたりというようなことがありました。

あと、それぞれのパソコンでスタートボタンを押して始まるのですがけれども、2、3秒ずつぐらいの微妙なずれが個々にあります。自分が問われているのですがけれども、周りの声が聞こえないからぱっと答えていいのだろうか、早目にスタートボタンを押した子がちょっと戸惑ったりというのはありました。

(山本委員)

恐らく、昨年度は井吹台中学校が代表してというか、取り上げられての実施でしたね。

(浦川教科指導担当課長)

はい、そうです。

(山本委員)

今年は全校になるということは、やっぱり浸透の仕方や中身についても懸念される要素もあるかと思いますが、トラブルがないように、また全力を尽くしていただけたらというふうに思います。

(浦川教科指導担当課長)

わかりました。説明とかも含めて、ちょっと混乱のないようにやりたいと思います。

(梶木委員)

今のお話で、クラスの大きい学校で問題がなかったから大丈夫だということかもしれないですけども、小規模校は小規模校特有で何か課題があったり、それを去年やっていないのであれば、何か問題があるかもしれませんね。

(浦川教科指導担当課長)

でも、小規模校であれば1回で済む場合が多いので、パソコンルームに1回入れて終わることができます。大規模校であれば生徒の入れかわりとかがあり、そっちのほうがやはり難しいなという印象があります。

(梶木委員)

実施体制的には、教室とかパソコンの数の問題というのと、先生方の数の話があると思いますけれども。

(浦川教科指導担当課長)

井吹台中学校で検証したところ、見に行った私たちは除いたとして、やはりパソコンルーム内に先生2人は欲しいです。あとは、入れかわりがある中学校の場合は、誘導の先生という形をお願いしないと難しいと思います。

(梶木委員)

それは、全部同じ日にやるのですよね。

(浦川教科指導担当課長)

はい、そうです。

(梶木委員)

なかなか学校の負担が大きいと思うので、よろしくお願ひしたいと思います。

(長田教育長)

他にございますか。今井先生はよろしいですか。

(今井委員)

大丈夫です。

(長田教育長)

この教第66号議案は承認ということにさせていただいてよろしいですか。

(5名の賛成により可決)

(長田教育長)

ありがとうございました。

### **報告事項3** 平成30年度全国学力・学習調査、神戸市学力定着調査の結果報告書（データ版ならびにアイデア版）について

(長田教育長)

続いて報告事項3です。平成30年度全国学力・学習状況調査、神戸市学力定着度調査の結果報告書（データ版ならびにアイデア版）についてです。この件について簡単に説明をお願いします。

(浦川教科指導担当課長)

お手元に2つ冊子がいっていると思います。緑色のほうがデータ分析版ということで、詳細版とも言えますけれども、これが各学校に一部いきます。青いほうが授業アイデア版と言って、検証結果に基づいた授業改善のアイデアとかを盛り込んだもので、これは先生全員に配ります。

緑色のデータ分析版からごらんください。4ページから6ページは、記者発表資料等々の全国調査の結果です。

7ページから74ページまでが、神戸の子供たちの教科に関する調査の結果についてということで、神戸市調査と全国調査を合わせたものですので、小学校4年生から中学校3年生までの記述があるものです。例えば13ページをごらんください。1点だけ例示を出しますが、ここは小学校6年生の国語なので、全国調査の小学校6年生の分析ということになります。(2)の分類・区分別集計結果です。評価の観点とか、問題系識別の正答率等々を比べています。例えば、全国との比較も載っていますけれども、特に書くこと、学習指

導要領の領域等のところを見ていただくと、神戸市と全国との差がマイナス2.6ということ、そういった形で課題が見られるという見方になります。

15ページからは、分析の結果という形です。例えば、B問題のところを見ていただくと、4つ目のぼちのところになります。問題の形式でいうと記述式が3つあったのですが、この3つの問題が全て全国より大きく下回っています。14ページを見ていただくと記述式のところに○を打っている問題です。3つありましたけれども、「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書く力」を問うような問題については、正答率は10%を切ったといったところで、小学校の国語に課題があるという状況ですけれども、その中でもやはり、目的等に応じて書く力というところが課題であるということが浮かび上がってくるというものです。

16ページ以下が、その課題解決に向けた取り組み等々を書いています。

とびまして75ページです。こちらは児童生徒に対する質問紙調査をまとめたものです。これも例示しますので、79ページをごらんください。79ページのQ10ですが、「学校の授業以外で、ふだんどれぐらいの時間勉強しますか」という問いです。これは、学校の授業以外なので、塾で勉強している時間も含まれます。神戸市の状況を見ると、例えば「3時間以上」やっているという子供が小学6年生で18.6%です。全国の12.5%にしては非常に高いというのが見られる一方で、勉強時間が「30分より少ない」が神戸市で8.9%。「全くしない」が4.1%ということで、学校以外での勉強時間が非常に長い場合もありますけれども、非常に短い場合もあるということで、二極化しているなということが伺えました。

続いて110ページにとびますが、今度は学校に対する質問紙調査をまとめたものです。例えば、117ページのQ22を見ていただくと、「国語、算数・数学の指導として、家庭学習の与え方について教職員で共通理解を図りましたか」といったものに関していうと、神戸市は小中ともに全国に比べるとかなり低いということが言えます。こういった宿題の与え方についても、何らかの形で共通理解を図ったりするか、そういった取り組みが必要であろうということが言えます。

あとは、119ページのQ30「校長先生は校内の授業をどの程度見て回っていますか」といったところに関しても、やはり全国平均と比べると大きな差があるといったところで、こういったことにかかる学校全体の何らかの意識改革であったり、支援というものが必要であろうかということがいえるかと思えます。

120ページからは、神戸市学力定着度調査の学習状況等に関する教員調査です。

またとびますが、130ページからは神戸市学力定着度調査の教科に関する調査と、学習に関する生活実態調査の相関関係を示したものです。これも何回かお示したことがあったと思いますが、例えば132ページをご覧いただいて、「学校が好きだ」と回答した子供の正答率を見ています。「学校が好きだ」に当てはまると、当てはまらないの順番で4択だったのですが、「学校が好きだ」に当てはまる児童生徒のほうが、やはり正答率が非常に高いという傾向にあります。以下同様に「学校が楽しい」といったものに関して

も、おおむね正答率との相関関係が伺えるということで、やっぱり「学校が好きだ」とか、「学校が楽しい」と思ってくれるような取り組みというのも含めて必要であろうかということがいえるかと思います。

続いて青いほうの冊子です。アイデア版をご覧ください。冒頭は大体同じなのでとばしていきませんが、9ページから、「力のつく授業－神戸方式－」という形で銘を打って、授業の進め方のスタンダードというものを示しています。目当てを最初に設定して、そのあと授業を展開して、最後に必ず振り返る。こういった時間を、45分ないし50分の授業の中で確実に行ってほしいといった形で、引き続き周知に努めていきますということです。

12ページ以降は、小学校4教科、中学校5教科ごとの指導方法の工夫改善ポイント、授業アイデア等を示しています。

例えば16ページの小学校の国語ですが、データ分析版のところでも申し上げましたけれども、書くことに課題があるということなので、書くことの過程を確認して、なぜ、何のために、誰に向けて書くのかということを確認する必要があります。全国調査の問題もそうなので、「自分の思ったことを書きなさい」という問いではありません。例えば、与えられたキーワードを使って何文字以内には書けとかといった話なので、そういったものに対応できるような課題を設定して、授業改善に取り組みしましょうというものです。

以下、教科ごとに様々なアイデア版という形で続きます。

また、巻末のほうになりますけれども、ICTの関係です。62ページのところに、今後整備が進む予定であるICTの活用といったものも掲載しています

これを全教員に配布するわけですが、単に配って終わりでは意味がないので、例えば初任者に対する研修の時には必ず持ってきてもらったりとか、それ以外にこのアイデア版を活用した授業なんかを神小研の部員などとタイアップして行って、それを動画撮影して、授業動画というものをイントラで公開していますので、それをコンテンツに加えるようにするといった形で、せっかく作ったものを有効に活用できるように、1年通じて取り組んでいきたいと考えています。

以上です。

(長田教育長)

この件について、御質問、御意見ありましたらお願いします。

(山本委員)

個人的には、本当にこのデータ分析版も授業アイデア版も含めて、やっぱり教育委員会事務局の総力を挙げての部分になるので、立派にしっかりまとめているなどというのは本当感心する限りですが、ただ、学校の先生方が多忙化、働き方改革云々という中で、非常に時間のない中でずっときているのが現状です。その中で、これがどうやって生かさ

れていくかという点も、やっぱり合わせて考えないといけないのかなと思います。特に、先ほども強調されていましたが、例えばアイデア版の9ページ、10ページの「力のつく授業－神戸方式－」のところ。「神戸方式」と名を打った以上は、これがどれだけ深く現場に浸透しているかということが非常に問われる部分だろうし、非常に大事なことだろうなと思います。そういうふうに「神戸方式」と名づけている以上は、やっぱり自信をもっての周知、啓発を進めていく中で、これが実際にきちっと行われて、子供たちにわかりやすい授業が展開されているという具体的な取り組みだとか、その成果指標も含めて、それをきちんと見ていくこと、またそれを現場にしっかり広げていくことが大事なのかなということをごく思います。せっかくこういうものがあるけれども、現場の先生方がこの「力のつく授業－神戸方式－」のこの3ポイント、1・2・3まとめまでといった時に、どれぐらいできているか。それはもうずっとやっていますと言えるのか、そんなの知りませんでしたとなってしまうのか、そのあたりをもう一回本当に改めてどう周知・啓発するかを考えていただきたいと思います。

この冊子もそうですけれども、小学校の先生でこれをやろうと思うと、国語・算数・社会・理科ということで、この中で22ページ読まないといけません。中学校の先生だったら、各教科担任ですから5ページでいいとかということになるかと思いますが、この辺から考えても、この中身については例えばダイジェスト的に絞って、ポイントだけにするとか、これだけは三カ年計画の中で集中してどの学校でも取り組もうとか、もっと現場の実情をいろいろ合わせながら、しかし学力を上げるというのはすごく大事なことから、項目を絞りきって、厳密にそれが「この1年の間に」とか、「この3年の間にどこまで」というような工夫も必要なのかなと思います。

せっかくいいまとめを出しているけれども、やっぱり22ページ分これを全部読みながらという、全部大事なことだけれども、改めてこうして見ると、小学校の先生だったら22ページ分もあるんだなと思いました。中学校の国語の先生だったら5ページ読んだらいいけれどもというようなことを含めると、この辺の工夫も今後必要になってくるかなという感想です。またよろしくお願いをしたいと思います。

(伊東委員)

この分析結果ですが、小学校と中学校の冊子を分けるということとはされないのですか。

(浦川教科指導担当課長)

同じ冊子にしています。連続性とかも見てほしい思いもあります。小学校で国語はどんな指導をしているのだろうかとかを中学の先生に見ていただいたりとかです。

(伊東委員)

山本先生とは逆なのですからけれども、見ていただいたという確認とか、そういうのはされ

る予定はないですか。

(浦川教科指導担当課長)

確認という形で何かをもらうということはちょっと考えていません。

(伊東委員)

せっかくいいものをつくっていただいて、春休みとかもお忙しいかとは思いますが、我々、梶木先生もそうですけれども、大学とかになると、いろんな問題が出た時とかに、ビデオを見なさいとかがきて、そういうのを必ず見たかどうかの確認があります。1時間ずっと見て設問に答えたりということはありません。先生がお忙しいのも重々承知していますけれども、せっかくこれだけ分析結果が出ているので、次へのステップがわかればいいのかなあとと思います。

(浦川教科指導担当課長)

K E Cでは、機会がある限りいろんな研修に集まってきてもらっているのですが、それを例えばホールに集まった時なんか「読んでくれていますよね」という話をしつこいぐらい言っていきたいと思います。

(梶木委員)

家庭学習の話の冒頭でされたと思いますけれども、この中で、塾に行っているとかというのがわかるころはありますか。

(森総合教育センター首席指導主事)

それはいいですね。

塾も含めて家庭学習というか、学校以外での学習時間というふうになっています。

(梶木委員)

よく中学校になると通塾率が高くなるというお話を聞くもので、その辺がどれぐらいなのかと思ったのですけれども。

(浦川教科指導担当課長)

市ごとの通塾率データはありますので、この後の議題で説明します。通塾率は小学校でも指定都市の中で高いほうですね。

(梶木委員)

そうですね。いつもそういうふうになっていますよね。

(浦川教科指導担当課長)

ただ、塾もいろいろありまして、補習塾もあるし、進学塾もありますので。

(梶木委員)

そうですね。

(浦川教科指導担当課長)

ただし、やはり勉強しても「30分未満」という児童が多かったのがやはり大きな問題かなあと思います。

(梶木委員)

何が嫌なのでしょうね。

(浦川教科指導担当課長)

やっぱり、家庭で勉強をするような家庭環境がなかなか厳しいのか、そういった状況かなと思いますけれども。

(梶木委員)

空間なのか、人なのか、とかでいうと、全部混じった感じですか。

(浦川教科指導担当課長)

どちらもあるのではないのでしょうか。

(梶木委員)

宿題とかも出されていますよね。宿題がいいかどうかはまた別の議論だと思いますけれども。

(浦川教科指導担当課長)

それはあります。何カ所もいろいろ回らせてもらっていますけれども、かなり地域によって、学校の御苦労もまたさまざまだなとは思いますが。

(伊東委員)

「みんなの学習クラブ」っていうのはどんな感じになっているのですか。これは誰でも入れるのですか。



(浦川教科指導担当課長)

学校でさわる限りにおいては、小学生・中学生全員見ることができます。

(伊東委員)

これは学校で見られるものですか。

(森総合教育センター首席指導主事)

はい、学校で見られます。

(浦川教科指導担当課長)

中学生は家でも見られます。

(伊東委員)

また機会があれば、利用頻度みたいなものを教えていただきたいです。私たちも入力して見ますけれども、非常にためになるものだと思います。

(浦川教科指導担当課長)

かなり放課後学習に使ってくれていたりとか、学校を回ると「不登校気味の子供が使っているのが本当にいい」と言っていたりして、その辺は非常にありがたいなと思います。

(伊東委員)

他府県ではこういうのが出たら、ぱっと記事になることがあるのですがけれども、せっかくこんないい教材があるので、また実用例、有効活用方法みたいなことも含めて教えていただければと思います。

(浦川教科指導担当課長)

はい。

(山本委員)

今後恐らく、神戸でもっとICT機器が学校へ入ってきた場合、この62ページ以降みたいなことを、今の事例もさらに加味しながら、もっとわかりやすい、読みやすい、また手引きにしやすいようなものになってくるかと思うのですが、それがこの冊子についているのいいか、別になっているのいいのかは別問題として。今後はこういった中で、ぱっと見れば機器の使い方や利用の仕方がわかるみたいなものが非常に効果的かなと思いますので、関係のところと連携しながら、ぜひともこういった手引きが現場においてきて機器

とともにあると物すごく使いやすくなるので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

(浦川教科指導担当課長)

多分、別のほうがいい気がしますね。

(山本委員)

そうですね。

(浦川教科指導担当課長)

関係課と話をしてちょっと考えます。

(梶木委員)

116ページとか117ページの家庭学習ばかり言って申しわけないのですが、データを見ると、家庭学習の働きかけがすごく神戸市は弱いみたいに思うのですが。

(浦川教科指導担当課長)

そうですね。おっしゃるとおり、そこがやはり課題だなということで思っています。

(梶木委員)

そうですね。小学校の中で全国平均よりずっと低かったりするので、他の都市がどんなふうになっているかとかは研究されていると思いますけれども、神戸市で保護者に対して家庭学習を促すような働きかけというのができない理由が何かありますか。何を指すのかわからないのですが、先ほどの「おうちでそれを使って勉強しましょう」とかそういうことなのかわからないですが、これが神戸市の学校としては家庭で促すことがやりにくい状況が何かありますか。

(森総合教育センター首席指導主事)

特にはないです。

(梶木委員)

ないですか。

(森総合教育センター首席指導主事)

ないと思います。今まで、そこにまだ手をつけていなかったところがあるかもしれません。

(梶木委員)

ちょっと曖昧な質問の仕方なので、答えるほうが何をもって家庭学習と答えたかもわからないですけども。

(森総合教育センター首席指導主事)

確かに、できにくい環境の子供たちが多数いるということは事実かもしれないです。

(浦川教科指導担当課長)

ただやはり、それにかまけておろそかになっていた可能性はぬぐい切れません。学校によっては家庭学習の手引きみたいなものをつくって、PTAとタイアップしているところも、市内の学校ですけども、そのようなことをされているところもありますので、そういった家庭学習への働きかけについての事例を収集して、例えば研究発表みたいな場で全校への周知を図ってもらうようなことはしたいなと思っています。うまく協力しながらされている学校もやはり聞きます。

(梶木委員)

先生が忙し過ぎるという辺りは関係してくるのですか。私は多忙化対策の話をいつもしているじゃないですか。そういうことが要因の1つになっているのであれば教えてほしいですけども。

(浦川教科指導担当課長)

大きい要因ではないと思います。家庭学習に対してどう働きかけるかという話なので、自分が残業して何かやってという趣旨ではないです。それは、大きい目で見れば多忙化が関係なくはないですけども、家庭学習のことまで多忙化と言われたらやってられないです。

(長田教育長)

ちょっとよろしいですか。このテストの成績だけが当然学校教育ではないわけで、もっと学校教育は幅が広いものだと思います。特にこの学力テストというのはあくまで特定の一部ですよね。ただ、そうは言いながらもこれだけ続けて小学校、特に国語において課題があります。全国平均から比べて低いというのが続いている現状にあって、これまで通りのことをやっていたのではだめだというふうに思いますね。もちろん放課後学習とか、いろんな手だてや施策をこの間やってきていますけれども、やっぱり大もとは授業力、授業における教師の力です。力のつく授業で、まさしくこの授業力の向上だと思いますけれども、そういう意味でこれまでもこういうデータ分析なり、授業アイデア版ということを出してきているのですよね。だから、それをどれだけ浸透させて、それぞれの現場の教員

に伝わっているかということももちろんあります。それから、これまでやってきたこととは違う何かしらの、もう少し掘り下げた具体的な授業力の向上に向けた対策というか、考えをもっていることがあればちょっと教えてほしいです。というか、それをしてもらいたいという要望も含めてです。

(浦川教科指導担当課長)

現場を回らせていただいて、教員の若手が増えています。若手や臨時講師が非常に増えているというのがまず実感としてあります。そういった者について、まず授業力をつけてもらう必要があります。今年度から始めている取り組みということで申し上げますと、例えば新人で授業経験がない教員に対するKECからの訪問指導を始めました。大体月1回か2回ぐらい訪問をして授業の改善指導などを行ったりしています。あとは学校訪問ですね。特に課題が大きい小学校については、総合教育センターの指導主事が今年度から全小学校を回りました。授業を見させていただいて、その後に講評をして授業の進め方、改善ポイント等を指導します。やはり、様々に課題はありますけれども、教育長がおっしゃる通り授業改善というものが何より1丁目1番地であろうという考えのもとに、そういった実際に足を運ぶという取り組みをさせていただき試みをはじめたところです。

それ以外では、またいろいろありますけれども、授業改善について例えば「神戸方式」です。「目当てを提示して振り返りをやっていますか」とか、そういったものを各々の先生が確認できるようなチェックシートみたいなものをつくって、まず自分の授業をどう思っていますかということ客観的に見られるようなシートみたいなものを用意して、お願いしたいなと思っています。

(森総合教育センター首席指導主事)

今年度から教科の世話係会も開催しました。今年度は国語と算数、理科を開催しましたが、なかなか中学校とは違って教科担任制ではありませんので、全ての教科を小学校は担任がしないといけないということで、国語・算数・理科それぞれの学校の世話係を集めて、主事から周知しているところではありますし、それをもう少し広められないかというふうにも考えています。

(長田教育長)

さっき山本委員がおっしゃったように、なかなか小学校の先生はあれもこれもとかなり守備範囲が広いから大変だと思います。また、これまでの通り一遍で、あとはいろんなフォローのことも含めて今やってもらっているわけですが、どれも通り一遍で、あとは個人の授業にお任せするというようなことでは、もうなかなか難しいのではないかなという気がします。何かもう少し、もちろん自主的に主体的に現場の教員にやってもらわなければいけないのですけれども、何か実効性が高まるような、しかもやる気をそがずにモ

チベーションも維持向上させながら。一緒の方向に向かってやってもらえるような、何か少し漠然としたものの言い方で申しわけないですけども、もう一段、二段掘り下げたような取り組みがいるのではないかなという気がしています。

またその辺は、ぜひこれからの展開、取り組みについてこんなことを考えていますということがあれば、またこの場で披露して説明していただきたいなと思います。それはよろしくをお願いします。

それともう一つ、このデータ分析版の紹介があった119ページの、教職員の取り組みのQ30で、「校長は校内の授業をどの程度を見て回っていますか」という設問に対して、神戸市は小学校6年生、中学校3年生とも、全国に比べてほぼ半分とかですよ。これはどうとらえたらいいのでしょうか。やっぱり校長もなかなか忙しいこともあるから、あれもこれもしないといけないというのがあるのかもしれませんが、ただ、校長の1番の役割が学校運営、学校経営ですよ。それから言うと、授業がどういうふうになっているかというのをもちろん把握をしていただく必要があると思います。役割が多過ぎて、なかなか足を運ぶ機会を持ってないということなのではないでしょうか。それとも、何か別の理由があるのでしょうか。兵庫県なり、全国に比べてもかなり低いです。今の学力とは、ちょっと別の話にはなるのかもわかりません。昔からこの傾向ですか。昔はこんな設問はなかったですか。

(梶木委員)

毎年ありました。

(長田教育長)

傾向変わっていないですかね。

(梶木委員)

あとは、研修なんかもいっぱいやっていますと聞きますけれども、他と比較されるとちょっと教員の参加が低かったり、やっていなかったりとかもあるなと思いますけれども。

(住谷教職員人事担当部長)

多分傾向としては、この数年校長が授業を回っている頻度は増えているような実感はあります。校長会からもその話が出ていますし、事務局のほうからもやっぱり授業が大事だという指導を受けているので、頻度は増えているようには思っています。大昔は余り見もらったイメージがありませんけれども、私自身も昨年度校長のときは結構回りました。ただ質問で、「毎日回っていますか」というところになかなかチェックが付きにくいです。多分私もこれをつけた時は「週に2・3日」というところにつけたと思います。そこで言うと、ちょっと差が縮まっているのかなとは思いますが、けれども。

(長田教育長)

ただ、全国の小学校でいうと、7割の人が毎日回っていますということですよ。

(住谷教職員人事担当部長)

そうですね。そうなのかなという気もしないではないですけども、済みませんがわかりません。

(長田教育長)

ちょっと気になったものですから聞いてみました。

(梶木委員)

でも、毎日回るように努力してみましようという方針を出したほうがいいですかね。絶対しなければいけないというところまでは、なかなか難しい時もあると思います。意識として、毎日回らましようということをやってみたら、学校が変わるのであれば。

(森総合教育センター首席指導主事)

そういう意識の校長は多いと思います。

ただ、今おっしゃられたように、教室を回っているけれども「ほぼ毎日」と言われると、ちょっと難しいかなというところで、「週に2・3日」というふうになっているのかもしれない。それはちょっとわかりません。先日、校長会でこの授業アイデア版で説明させていただいたのですけれども、その中で「授業アイデアがいっぱい載っています。板書例も載っていますので、校長先生はこれをもとに授業を見ていただきたい。こういう視点で授業を見て、若手教員とかにアドバイスをしてください。」というようなお願いはしました。ただ漫然と校内を回るのではなくて、授業改善という視点で校内を回ってほしいというお願いです。

(山本委員)

確かに大事なことではあるかとは思いますがね。やっぱり規模的に小さな学校と大きな学校では随分印象も違うと思います。私も30クラスあった時は、回っても、各教室にいる時間が1分とか、とばす場合もあったりします。やはり政令市みたいな大きなところにあるところはこんな傾向になるのかもしれないけれども、でも校長会もよく言われているように、やっぱり学校にいて、できるだけクラスの様子や子供の様子を見るというのはすごく大事なことかなと思います。

(住谷教職員人事担当部長)

もう一つは、多分昨年と比較して、今年のほうが数字は上がるのではないかなと思いま

す。それはまた説明がありますが、人事評価が今年から本格実施になったので、よく言われているのが「授業も見ずに評価ができるのか」という職員からの意見も出てくるので、その辺で意識はこの1年変わっていると思います。

これは当然去年のデータですよ。

(浦川教科指導担当課長)

この4月に聞いたものです。

(長田教育長)

この件、いろいろもっと他にも質問や意見があるかもしれません。何かもしこの際というものがあれば、今お出しただけならと思いますし、また後ほど事務局のほうに御意見をいただいても結構です。

(今井委員)

1点だけ済みません、この授業アイデア版ですけれども、ターゲットとして、多分平均的な層をイメージしてつくられていると思いますけれども、やっぱり学校によって、生徒さんによって、実際のところかなり差があるわけで、そういったことにもうちょっと対応できるようにしてもらいたいです。そうするとまた分厚くなって、山本委員がおっしゃったことに反してしまうかもしれないですけれども、もう少し課題の多い、生徒さんが多い学校ではもっとこういうところに気をつけたほうがいいのか、逆に通塾とかが進んでいる生徒さんが多い学校であれば、もっとこうしたらよりよくなるとかがあると思います。そういう真ん中だけをイメージするのではなくて、もうちょっと幅広く使っていただけるように、もうちょっと何か工夫ができればと思います。

また次年度に向けてぜひ検討いただければと思います。

(梶木委員)

多分、国語だけ上げようと思って国語ばかりやっても仕方がないと思うので、小学校なんかは特にどの科目も国語力はすごく大事だと思います。授業アイデアとして、ピンポイントの国語ではないところでも、こういうところで国語力を上げることができるというような、国語の授業が苦手な子でも、例えば図工の授業だったら国語的な要素が入ったことでもいけるという、そんなアプローチの仕方もあるのかなと思います。いろんなアイデアが入ると、今の今井先生の意見もそうですけれども、どうしても教科に絞ったアイデアばかりになってしまいます。国語と算数、英語と国語と数学みたいなことになって、そればかりやられるとしんどい子も結構いると思うので、満遍なく学力が底上げできるようなアイデアを多分皆さんおもちだと思います。その辺がきっと若手教諭には「国語をやらなくては」と言われたら国語ばかりになってしまって、何となくバランスが悪いのかなと思

うところがありますので、またベテランの先生方からお願いしたいと思います。

(浦川教科指導担当課長)

特に、全国調査で今年の理科の問題なんかを見ても、ほとんど理科の知識というよりは、読解力でした。

(梶木委員)

そうですね。

(浦川教科指導担当課長)

おっしゃるとおり、別に言語活動は国語だけではないし、いろんな教科に垣根はそもそもないんですけどね。その中で取り上げる機会というのは大事だと思います。

(川田教育次長)

ちょっとよろしいですか。教育長のほうから、具体的に学校におろして行って努力するところを明確にというようなお話があったと思います。特に書くという力が今弱いという話がありますが、私も小学校の教員ですので、恐らくこういうことが起こっているのではないかなと予想されることが、小学校の先生というのは結構全員に発表させるということを中心とします。全員発表みたいなことです。それには結構時間がかかります。書くという作業を入れたら、書く時間ってやっぱり10分か15分ぐらい与えてやらなければいけないものもあります。物を言わすばかりで書く時間が確保できないみたいな、そういうことがもし授業の中で起こっているならば、書くことも物を言うことも、表現という意味では同じ分野に入りますので、書いて表現するということとらえ方ができるのですよというようなことは、学校現場の若い先生方にも伝えていってもいいのかなと思います。長い期間ちょっと遠のいているので、今現在の状況がどのようなものなのか、ちょっとちんぷんかんぷんなことを言ったかもしれませんけれども、そういう先生がまだ多いとしたら、書く時間を確保して書くことへの抵抗をなくす、しっかり鉛筆を持たせるということをやっていくことも一つかなと思います。

(森総合教育センター首席指導主事)

以前に比べると、45分の授業のタイムマネジメントをしっかりとするというところもありますので、全員発表と言われると、私も教員で非常に胸が痛いのですがそういうことをやっていました。そういう先生もまだまだいらっしゃるのですけれども数は減ったかなと思います。授業の最後にきちんと振り返る時間をとりましょうということで、そこで書くということ。ただ、漫然と書かすのではなくて、目的を持って書くということも今神戸方式の中で周知していますので、それも徐々に広がりつつあるかなというふうに思っています。



(伊東委員)

1つだけお聞きします。105ページの間102ですけれども、私も何度か授業を見に行ってみたことです。ALTの先生がいらっしゃって授業をしているのに、「英語をよく使う」というのに当てはまるのがちょっと少ないですね。見に行っても理解しているのかなという子もいたりするところがあるので、せっかくALTの先生がいらっしゃったら、その授業では「英語がよく使われる」ということに当てはまるのがもうちょっと多くてもいいのかなって思いました。何かこれがすごく気になりました。理解しているというよりも、「使っている」と思っている人が10人に対して3人しかいないというような形になるのかなと思いました。小学校も中学校も見に行っても、先生方はすごく頑張って工夫して、どうにかかわらせようとギャグを入れながらやっているところを見ると、もうちょっと数値が高くなっていいのかなあと。この先小学校に入ってくるので、ぜひ小学校がこういう数値にならないようにとはちょっと思いました。

(長田教育長)

よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

(長田教育長)

他にまた御意見、思いつくこと、気がつくことがあれば、事務局のほうまでぜひ御意見をさせていただきたいと思います。いずれにしても、教育大綱で学力の向上をうたっているわけですから、やっぱり今の状態を鑑みると、今までの取り組みに加えて、もう一段二段の創意工夫が必要だというふうに思いますので。ぜひまた次回なり次々回なり、この教育委員会会議に、今後の取り組みについての具体的な方策を示していただきたいと思います。

## **その他の報告事項** 主要行事の報告と予定

(長田教育長)

では、次に移ります。

次はその他報告事項です。主要行事の報告と予定についてです。この件について、御質問等はありませんでしょうか。次回の教育委員会会議は1月28日月曜日となっています。

よろしいですか。

(「はい」の声あり)

(長田教育長)

その他、この会議で取り上げるべき項目について御意見がございましたらお願いしたいと思いますがございませんでしょうか。また後日でも結構ですので、何かありましたら、事務局までお伝えをお願いしたいと思います。

それでは、ここで公開案件については全て終了しました。

恐れ入りますが報道関係者の方々、傍聴者の方々については御退席をお願いします。

—傍聴者 退席—

**閉会：午後6時00分**